

笠岡市小中一貫教育推進計画 改訂版（案）に係る

パブリックコメントの結果と笠岡市教育委員会の考え方について

- ◆ 募集期間 令和8年2月20日（金）から令和8年3月12日（木）
- ◆ 意見提出者 3名
- ◆ 意見件数 11件

【ご意見の内訳】

| | |
|--------------------------|---|
| (1) 学校規模適正化計画を踏まえた小中一貫教育 | 7 |
| (2) その他 | 4 |

- ◆ 推進計画に関わるご意見に対する笠岡市教育委員会の考えは次のとおりです。

(1) 学校規模適正化計画を踏まえた小中一貫教育

| ご意見の要旨 | | 笠岡市教育委員会の考え方 |
|--------|---|---|
| 1 | 小中一貫化したばかりの金浦中を、笠岡西中・新吉中と統合するのは疑問に思う。 | <p>令和2年当時には、金浦中を施設一体型の小中一貫校として整備する計画がありましたが、想定以上に児童生徒数が減少する予測となったことから、令和7年4月に「笠岡市立小・中学校学校規模適正化計画」を改訂しました。</p> <p>適正化計画では、「小学校は複式学級が発生するまでは地域に残し、中学校についてはクラス替えができる規模を確保する」ことを方針としているため、小中一貫教育は施設分離型で実施することとしております。</p> <p>こうした計画のため、クラス替えのできる中学校は市内に2校となることから、笠岡西中・金浦中・新吉中の3校を統合する(令和17年度目途)という新しい配置計画へと方針を見直すこととしたものです。</p> |
| 2 | 北川小は新山小・吉田小との統合ではなく、近接する小北中との小中一貫校化が望ましい。 | <p>令和2年3月に策定した小中一貫教育推進計画では、6つの中学校ブロックを基本とした小中一貫教育を進めることとしていました。しかし、近年の急激な少子化の推移を踏まえすと、このまま6ブロック体制を維持した場合、将来的に市内の学校の多くが極端な小規模校となってしまうことが見込まれます。小北中と北川小との一貫校を設置した場合も、遠くない将来に、極小規模校になることが予測されます。</p> <p>小規模化が進み過ぎると、多様な学習活動や部活動の選択肢が制限されるなど、子どもたちにとって適切な教育環境を整えたことにはならないと判断し、令和7年4月に学校規模適正化計画を改訂いたしました。</p> <p>また、市全体の学校再編の枠組みを検討するに当たっては、小北中は笠岡市と矢掛町による組合立の学校であるため、笠岡市単独で再編の決定ができないといった事情もあります。</p> <p>こうした市全体の状況や様々な制約を総合的に見据え、「子どもたちにとって将来にわたって望ましい教育環境をどう守っていくか」を第一に考えた結果、中学校は基本となる市内2校(東中ブロックと、それ以外のブロックを統合した学校)に、小規模校の良さを生かした教育を行う「特認校」としての神島外中を加えた、合計3校体制とする計画としています。</p> |
| 3 | 北川地区から学校がすべてなくなることは、地域の将来にとって問題である。 | <p>北部地域は児童数の減少が著しく、新山小では既に複式学級が発生しており、吉田小・北川小におきましても、今後複式学級が生じることが見込まれる状況です。こうした厳しい現状ではありますが、学校規模適正化計画では、「小学校は地域に根ざした教育活動を重視し、複式学級になるまでは、可能な限り地域に残す」ことを基本としていることから、「北部に小学校を何とか1校存続させ、引き続き地域振興の核としていきたい」という考えで、北川小・新山小・吉田小の3校の統合を計画しています。</p> <p>適正化計画は、統合により地域から学校がなくなるのではなく、学区が広</p> |

| | | |
|---|--|---|
| | | がるという考え方を重視していますので、北川地区の皆様におかれましては、これまでと変わらず、新しい学校と子どもたちを温かく支えていただきますようお願いいたします。 |
| 4 | 新山・吉田地区(新吉中学校区)とこれまでつながりのない北川地区が統合されると、北川の子どもたちにハンデが生じる。 | <p>現在、令和9年4月の「新山小」と「吉田小」の統合に向けて、統合準備委員会で話し合いを進めています。「北川小」の統合時期は令和12年4月となっていますが、早い段階から北川地区の皆様にも話し合いに加わっていただき、北部3校が一緒になって新しい学校を作る準備を進めていきたいと考えています。</p> <p>市としましては、子どもたちが新しい環境にスムーズに馴染めるよう、しっかりとサポートいたします。統合前には児童同士の交流活動を十分にを行い、統合後も教職員が手厚くフォローします。子どもたちが決して孤立感やハンデを感じることはないよう、細心の注意を払って準備を進めてまいります。</p> |
| 5 | 複式学級になるとかわいそう」と保護者の不安を煽るような説明はやめ、学校の存続を地域全体の問題として捉えるべき。 | <p>複式学級には、異学年交流の良さがある一方で、指導内容が異なる2つの学年を同時に指導することによる学習指導上の難しさや、集団活動が制限されるといった客観的な課題があります。</p> <p>小規模校の良さもあるものの、現在の急激な少子化の推移は大変厳しく、将来的に「同級生が一人もいない学年」が発生することすら現実のものとなってきています。こうした将来の児童生徒数の著しい減少を考えると、ある程度の人数規模が確保されなければ、多様な意見に触れるグループ学習やチームでの部活動など、集団だからこそ学べる経験や体験ができなくなってしまうという強い危機感を持っております。</p> <p>ご指摘のとおり、学校の在り方については地域の皆様にも課題意識をもっていただくことは重要と考えます。今後も当事者である子どもたちの教育環境を中心に据えた議論にご理解とご協力をいただきますようお願いいたします。</p> |
| 6 | 本来は、従来の小中連携を少し深める「持続可能な小中一貫教育」で十分だった。 | <p>小中学校の9年間を見通し、学びの連続性や系統性を重視する小中一貫教育は重要であり、これまでの取組の成果もあったと認識しています。そうした中で、これを持続可能な取組としていくためには、厳しい将来の児童生徒数の減少予測を踏まえて、制度設計をしていく必要があります。改訂した学校規模適正化計画における将来の小中学校の学校数からは施設一体型小中一貫校の設置は困難であり、これまで小学校と中学校が果たしてきた役割も大きいと考え、小学校期6年と中学校期3年を基本とした施設分離型による小中一貫教育を推進することといたしました。</p> |
| 7 | 小中学校の統合自体はやむを得ないが、当事者(児童生徒や現場)がづらい思いをしないよう十分に配慮して進めてほしい。 | <p>学校統合へのご理解をいただき、ありがとうございます。</p> <p>ご意見のとおり、統合を進めるにあたっては、児童生徒や教職員の不安や負担を最小限に抑えることが何より重要であると認識しております。新しい環境への円滑な移行に向けて、児童生徒の事前の交流活動や心のケアを充実させるとともに、学校現場の意見を尊重し、過度な負担がかからないよう十分に配慮しながら、丁寧な進行に努めてまいります。</p> |

(2) その他

| | ご意見の要旨 | 笠岡市教育委員会の考え方 |
|---|---|---|
| 8 | 今の教育は、子どもの「我慢する力(忍耐・粘り強さ)」を育てる点が不足しているのではないか。 | <p>忍耐や粘り強さ、感情・行動の調整力は重要です。計画推進に当たり、基本的な生活習慣や学習規律、規範意識の育成、挑戦と振り返りを通じた指導、発達段階に応じた支援等を重視し、統一された目指す子ども像と指導方針のもと、学校・家庭・地域が連携して9年間の教育に取り組めます。</p> |